

今夏の熱中症救急搬送状況(令和7年)



今年の夏、熱中症救急搬送者数につきまして、単独救急事案では過去最も多い熱中症傷病者を救急車で対応しました。

その中では、半数を高齢者が占めており、その中でも多くの方が屋内でも熱中症を発症し救急搬送されています。また、高齢者の搬送は日中の時間帯が多くを占めています。

高齢者の気温に対する特徴として、体温調節機能が低下しており、体に熱がこもりやすく暑さや喉の渇きを感じにくいなど、熱中症のリスクが高くなります。屋外での熱中症予防対策の他にも、近くにいる家族が室内の環境に気をくばり、行動や言動に注意し、高齢者の体調を気にすること、また水分や適度な塩分を補給することが大切です。日中に高齢者が一人で家にいる状況では、家族が定期的に電話を入れ確認したり、近所の人に気を配ってもらえる状況を考えることにより、熱中症発症のリスクを軽減し予防できます。

屋内での熱中症予防の注意点

※熱中症の発症には、その日の体調が影響します。

※エアコン・扇風機を上手に使用し室温管理をする。

※入浴後、就寝前、起床後には特に水分補給を心がける

※特に高齢者や子供へは、周りにいる人も注意し、声をかける。

(過去 3 年分の熱中症発生状況)

	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
5 月	0	1	0
6 月	4	1	8
7 月	2 5	1 8	3 1
8 月	2 5	1 7	1 6
9 月	3	5	3
10 月	0	0	0
計	5 7	4 2	5 8

	令和 5 年				令和 6 年				令和 7 年			
搬送人員	5 7				4 2				5 8			
18 歳未満	7 (12.3%)				6 (14.3%)				3 (5.1%)			
18～64 歳	2 7 (47.4%)				1 4 (33.3%)				2 8 (48.3%)			
65 歳以上	2 3 (40.4%)				2 2 (52.4%)				2 7 (46.6%)			
屋内・屋外	屋内		屋外		屋内		屋外		屋内		屋外	
	3 2	56.1%	2 5	43.9%	1 9	45.2%	2 3	54.8%	3 0	51.7%	2 8	48.3%
軽症	2 8 (49.1%)				2 1 (50.0%)				2 8 (48.3%)			
中等症	2 9 (50.9%)				2 0 (47.6%)				3 0 (51.7%)			
重症	0				1 (2.4%)				0			
男	3 6 (63.2%)				2 6 (61.9%)				3 1 (53.4%)			
女	2 1 (36.8%)				1 6 (38.1%)				2 7 (46.6%)			

